

## 令和5年度 第3回 スポーツ推進審議会 議事要旨

日 時	令和6年2月16日（金） 13：25～14：50
場 所	酒田市役所3階 第一委員会室
参 集 者	委 員／中條庸右、齋藤 隆、齋藤 勉、進藤和真、大滝美樹、 穂積 祥 欠 席／堀 俊一、田中 学、金子 尚 酒田市／鈴木教育長、池田教育次長、佐藤教育次長、 齋藤課長、土門課長補佐、高橋主査兼係長、乙坂係長、 小林指導主事
配布資料	資料1 令和6年度スポーツ振興課当初予算の概要 資料2 令和5年度におけるスポーツ推進計画の 主な取組み状況について（基本目標Ⅰ～Ⅳ） 資料3 中学校運動部活動の地域移行に係る対応について 鬼ごっこによる体力向上事業アンケート調査（概要） 大学生が実施した主な鬼ごっこ一覧

### 1. 開会（略）

### 2. あいさつ（教育長）

- ・日頃より、本市のスポーツ振興についてご協力いただき感謝申し上げます。
- ・インフルエンザの流行の心配はあるが、いろんなイベントが開催されてきている。今年度の事業の振り返りのほか来年度の予算について、そのほか部活動の地域移行の件について説明を申し上げ、委員の皆さまからご意見をいただきたい。
- ・山形新聞やコミュニティ新聞に、アランマーレに関する体育館のことについて報道があった。正式な記者会見を市長はまだ行っていないため記者会見後に公表する予定だったが、このようなかたちで先に報道された。市とプレスステージがうまくいっていないような誤解を与えかねない記事があったがそのようなことはなく、来週早々に市長が記者会見を開く。
- ・体育館の建設は断念するが、プレスステージ側からはマザータウンとしての酒田市と一緒に活動を続けたいとの言葉をいただいております、今後もこれまで同様に応援していきたい。

### 3. 協議（進行：会長）

（1）令和6年度スポーツ振興課当初予算の概要について **資料1**（事務局説明）

【質疑応答】

- （委員）新規事業や全国大会の開催が予定されている事業については予算化されるものと思われるが、各事業が令和5年度と比較して増額あるいは減額になっているか分からない。何らかの理由で増額になった、財源の厳しさから減額になったなどの状況について伺いたい。
- ⇒スポーツ振興総務管理事業と体育施設管理事業は、スポーツ振興課における維持管理経費であり大幅な増減はない。子どものスポーツチャレンジ支援事業は、スポーツ・運動能力測定会が令和5年度には予算付けがなかったので、その分が増額になっている。
- ⇒生涯スポーツ推進事業は、スポーツ推進委員のユニフォームの更新があるため令和5年度と比較して増額しているが、酒田市体育大会の負担金は令和5年度より若干減額にな

っている。スポーツによる地域コミュニティ活性化事業は市民体育祭に支出していた金額で、令和5年度と比較して減額になっている。

⇒体育施設整備事業は、陸上競技場のトラックレーン幅の改修工事が議会案件になる高額の工事であり増額になっている。八幡体育館改築事業は、これまでの設計業務から解体工事に入るため増額になっている。体育施設照明設備改修事業は令和5年度に予算付けがなかったため全額増額となり、光ヶ丘野球場は新規事業による増額となる。

## (2) 令和5年度におけるスポーツ推進計画の主な取組み状況について

### ＜基本目標Ⅰ＞誰もが楽しめる生涯スポーツの推進 **資料2-1** (事務局説明)

#### 【質疑応答】

- (委員) 鬼ごっこによる体力向上事業だが、学校の体育の授業では種目ごとの競技になりボールを投げるのが苦手とかある中で、遊びを通じて全体的に体を動かせる鬼ごっこは、子どもたちも楽しみながら体力向上につながっていると思う。低学年の子どもたちへの時間をもっと取れるといいと思う。
  - ・小学校の授業と、大学生の授業が重ならないよう時間の調整が大変だと思うが、少しでも運動嫌いの子どもが少なくなしてほしい。アンケートにも良い結果が表れているので、今後も続けてもらいたい。
  
- (会長) ラン&ウォークイベントを5月と10月に実施しているが、5月の企業対抗について、このイベントの周知はどのように行っているか。
  - ⇒5月、10月とも市広報に掲載しているほか、5月についてはハローワークから従業員数に応じた会社のリストをいただいて、200社程度にチラシを送付している。そのほか市の公式ラインでの周知を図っている。
  - ⇒企業対抗の順位が審議会資料に掲載されており、ト一屋は2年連続1位で山形県内でも1位、2位の元気王国は昨年3位だった。3位の東ソーは今回初めて参加していただいた。企業に案内を差し上げているが、興味のない事業者からは申し込みがない。
  
- (委員) 鬼ごっこ事業について良い効果を上げていて、指導の質的にもレベルが上がってきているようだが、小学校の1年生と6年生では教え方も変わってくるように思うがどうか。
  - ⇒事業を実施する学年については、学校の希望に沿って実施している。10回の実施回数の中で、学年の割り振りをお願いしている。
  - ⇒大学生側もいろいろと考えてきてくれて、最初は6年生と同じ内容の鬼ごっこを1年生に教えていたが、ルールが難しくできないことがあった。その後、引き継ぎを受けた大学生が次の授業では内容を簡単なものにするなど、毎回工夫して実施してくれていた。
  - ⇒5、6年生は鬼ごっこのルールが分かってくると、スポーツ振興課によるスポーツ鬼ごっこに取り組んだ。陣取り形式の鬼ごっこでいろいろとルールもあり、内容が複雑なものにも取り組んでもらった。

### ＜基本目標Ⅱ＞感動と活力に満ちた競技スポーツの推進 **資料2-2** (事務局説明)

【質疑応答】 なし

### ＜基本目標Ⅲ＞スポーツによる賑わいとまちづくりの推進 **資料2-3** (事務局説明)

#### 【質疑応答】

- (委員) 資料14ページに市のホームタウンづくりがあり、スポーツコミッションやスポ

ーツツーリズムの記載があつてとてもワクワクした。ホームタウンづくりに向かって進むことの宣言と捉えてよいか。

⇒アリーナ建設の話がある中、核となるのがアランマーレであつて、このように向かいたいとする理想像として計画したもの。しかし財政的に厳しいことからアリーナ建設の件は難しく、このとおりにはない。令和6年度にスポーツ振興課において、新たに検討しなければならない事業になる。

○(委員) スポーツツーリズム、スポーツコミッションともに、酒田の魅力をほかの地域にアピールするよいきっかけになると思った。スポーツツーリズムやスポーツコミッシが成功している事例をみると行政が主体となつて動いているが、住民の皆さんの、自分が住んでいる街を好きになってもらいたいという気持ちが強く感じられる。酒田もそのようになつてほしいと思う。

○(委員) ホストタウンのニュージーランドとの交流の件について、資料の記載がほかの事業とは違う。スポーツ関連ではなく、共生社会のことが掲載されているが、これは今後も推進計画の一つとして活動を継続していくのか。

⇒当初はおしんレースがあり、参加するニュージーランドの選手との交流が最初にあつた。コロナが流行してから大会が開催されておらず、一方で廃止することもできないため、なんとか交流を続けていきたいと考えている。おしんレースが復活すれば以前のようなかたちになるかもしれないが、コロナになつてからおしんレース事務局の担当者が変わり、大会運営を経験したことがないとのことで開催するのは大変とのことであつた。

○(会長) ホストタウンとして今も交流を継続しているのは村山市の新体操くらいだろうか。ホストタウンにはなつたが、コロナで状況が変わつてしまった。

○(委員) コロナ前と同じにはもう戻らないと思うし、コロナ前にすべて戻ることを市民は望んでいない。コロナを経験して、これまで気付かなかつた良さを感じてスポーツへの取り組み方を模索していければいいと思う。

・つや姫マラソン大会が、運営体制の都合もあつて子どもたちが参加できなかつたり、おしんレースも初めての人が担当することから開催ができないとあつた。前に戻る必要はないが、そのあたりのフォローが行政にあつていい。

・少子化が進む中、どの年代にどういったイベントをすることが効果的なのだろうか。子どもたちはいずれ酒田を出ていき、それでもいつか酒田に戻ってくるための酒田の街を、スポーツを含めてまるごと好きになってもらえるようなイベントになつてほしい。

・小さいうちから体を動かせる環境づくりを考えたときに、マラソンや走ることはとても大事だと感じている。つや姫マラソン大会や、いろんなところで子どもたちが参加しやすいイベントを考えていただけたらと思う。

⇒つや姫マラソン大会は、令和6年度は10kmとハーフの競技種目として実行委員会で決まつたところであるが、実行委員長である酒田市長の意向として種目を増やしたい考えを持っており、令和7年度は実行委員会で検討してほしい旨を伝えてある。

○(会長) 温海のさくらマラソン大会が、スタッフが確保できなくて中止になつたように、酒田でもスタッフの高齢化や人員不足がある。親子で走るファミリーコースや小学生、中学生のコースの要望があるが、その対応が難しい。スポーツボランティアを増やしての対応になるだろうか。

<基本目標Ⅳ>安全安心なスポーツ環境の整備 資料2-4 (事務局説明)

【質疑応答】

- （委員） 体育施設の休館や使用時間の変更等は、市民の要望によるものか。
- （会長） 国体記念体育館が工事に入ることにより使用できなくなるため、ほかの体育施設における週 1 回の休館について、管理を委託しているシルバー人材センター等への業務委託内容を変更して対応すると聞いている。
  - ⇒今後、八幡体育館が工事のため使用できなくなる。以前は市職員が管理人をしていた時代に月曜日の休みが必要だったが、現在はスポーツ協会やシルバー人材センターにお願いして交替勤務で管理していただいている。そういったものを考慮して 1 週間に 1 回の休館を廃止し、施設が工事中であっても運動できる場所を確保できるようにするもの。
  - ⇒使用時間については、旧三町では使用時間が午前 8 時 30 分から午後 9 時 30 分までなど、町時代のものをそのまま継続していたが、それを統一するもの。これにより市内の屋内体育施設には週 1 回の休館はなく、使用時間は午前 9 時から午後 9 時までに統一する。
  - ⇒今年度は国体記念体育館が工事のため使えない。一方でサッカーやソフトテニスが例年であれば冬季間に体育館を使用している。そのため例年冬季間は使用していない施設について、12 月は光ヶ丘球技場と国体記念テニスコートを雪が降るまでの期間、3 月は光ヶ丘球技場と国体記念テニスコートに加えて光ヶ丘テニスコートも一般に開放し、体育館の利用が少なくなるよう対応を図った。
  
- （委員） 週 1 回の休館の廃止について、国体記念体育館や八幡体育館の工事が順調に進んだのち、また休館を設けることになるか。
  - ⇒工事が終わったあとに、元に戻して週 1 回の休館を設ける予定はない。
  
- （会長） ネーミングライツの申し込みは 2 つだけか。
  - ⇒2 つの施設に 1 企業ずつ申し込みがあった。

### （3） 中学校運動部活動の地域移行にかかる対応について 資料 3

#### （資料に基づき事務局説明）

- ・今年度は県の委託事業を活用し、年度途中からだったが部活動地域移行総括コーディネーターを配置して進めてきた。市内 7 つの中学校のうち、一部で休日の部活動の地域移行を進めることができた。
- 1 部活動地域移行の現状（令和 5 年度）
    - ・7 つの中学校のうち一中、四中、東部中については、その地区にある総合型地域スポーツクラブと連携して地域移行が進んでいる状況にある。一中学区では希望ヶ丘体育文化振興会を中心に 11 種目、四中学区ではきらり川南スポーツクラブを中心に 5 種目、東部中学区ではひらた目ん玉スポーツクラブを中心に 7 種目、合計 24 種目でクラブ活動を行っている。中心と表現したのは総合型地域スポーツクラブ以外にも、道場やスポ少が受け皿になっているケースがあるため。
    - ・残り 4 つの中学校区においては受け皿となる組織がない。そのため二中、三中、六中では、PTA 会長や保護者会長、学校長を中心に、3 つの中学校区をまとめて受け皿となるクラブが設立できないか話し合いを始めている。鳥海八幡中については、やわた Y-Y クラブや鳥海ふれあいスポーツクラブと連携ができないか模索している。
  - 2 酒田市スポーツサポーター講習会&説明会
    - ・11 月 25 日に酒田市スポーツサポーター講習会と説明会を開催した。参加者は 44 名だったが、そのほとんどは競技団体や連盟の会長、事務局長で、スポーツサポーターのことよりも地域移行に関する質問が多く寄せられた。本来の目的であった講習会や説明会ではできなかったが、地域移行に関して知っていただく機会になったと思われる。

### 3 令和6年度部活動改革推進計画【重点施策】

- ・令和6年度は受け皿となるクラブの設立に向けて動き、令和7年度から二中、三中、六中での移行を進めていく。鳥海八幡中については、やわたY-Yクラブが受け皿になるのは難しい。しかし、すでに野球部において東部中、遊佐中、鳥海八幡中の合同チームで今年度の地区新人大会に参加している。このようにほかの中学校との連携が図れないか検討している。
- ・スポーツサポーターバンクを設立し登録を呼びかけているが、現在の登録者数は8名にとどまっている。2月に各中学校でどの競技種目の指導者がどのくらい不足しているかを調査し、一覧を作成した。その一覧を用いて、今後はピンポイントで各中学校での競技種目ごとのサポーター募集を周知していく。また、スポーツのほか来年度は文化部における文化サポーターも募集していく。
- ・地域移行が進んだのち、令和8年度以降に受益者負担の発生が想定される。そのため来年度から部活動応援企業制度を、富山県の例を参考にして企業からの協賛や応援をお願いし、保護者やクラブの負担を低減するかたちを作っていく。併せてオリジナル認証ロゴを作成し、応援企業としてPRできるように進めていきたいと考えている。
- ・令和8年度からの完全移行に向けて、令和6年度と7年度の2年間で休日部活動の地域移行を進めていくので、委員の皆様からもご理解とご協力をお願いしたい。

#### 【質疑応答】

- (委員) 部活動応援企業制度について、クラブに対し企業がスポンサーとなるのか。  
⇒企業から酒田市全体への応援のかたちを考えているが、企業が特定のクラブを指定するのであれば、そのクラブへの支援となる。
- (委員) クラブ支援についてふるさと納税の活用の話があったが、酒田の人が酒田にふるさと納税することはできないのではなかったか。そうした場合、地域外の方に応援をいただくのは難しい話ではないか。
- (会長) モンテディオ山形のジュニアチームや、アランマーレのジュニアチームについてはどのような扱いになるか。学区がまたがっている場合の活動場所や受け皿はどうなるか。  
⇒鳥海八幡中、東部中、遊佐中の野球部を例にすると、平日の練習は各中学校グラウンドで行い、土日だけ遊佐中や東部中に集まって活動している。地域移行はどこかのクラブに所属して、クラブチームで活動することになる。
- (会長) 生徒数が減少する中、単独校でクラブチームを作ることはできない。複数の中学校を横断するかたちでクラブチームを作ることはないか。
- (委員) 令和6年度の方向性が少しずつ見えてきたが、サポーターの人材発掘に加えその育成となると大変なのではないか。
  - ・地域移行については競技力を求める生徒と、楽しく活動を続けたい生徒がいると思う。そうした場合、地域に移行済みである一中、四中、東部中は競技力を求めているように感じられる。総合型地域スポーツクラブは生涯スポーツとして楽しく活動するのが原点にある。地域移行により、指導能力の高い指導者を求めている生徒と、楽しく実施したい生徒とで、取り組みを考えていかなければならないと思われる。
  - ・中学生で、運動部活動に所属するのは生徒のうち何割くらいか。  
⇒運動部活動に所属する生徒の割合は6割を切る程度。4割は文化部であったり、所属せず

に塾に通う生徒もいる。

- （委員）資料を見るとすべての生徒が部活動に所属し、すべて地域移行に進むと見えてしまう。競技力向上を求め学校を離れてクラブチームに入る、そこまで求めない生徒は総合型地域スポーツクラブに、と考えられるのではないか。
- （委員）スポーツ少年団も同じだが、競技力を高めたい子と、ワイワイにぎやかに活動したい子に二極化している。これを一つで活動しているため、不都合が生じる。分けられればすっきりして活動できるのだが、それはそれで問題になる。
  - ・小学1・2年生に競技力を求めても無理な話であり、小学校レベルではワイワイにぎやかにやっていくのがいいように思われる。中学生になると体もできてくるので、上を目指して活動するのもいいと思う。
- （委員）部活動は平日に学校で、土日は割り切って休みにし、競技力を求めるのならクラブに加入する、とはならないか。
- （委員）土日は休んでいる、としながらクラブ活動を実施しているケースもある。
- （会長）いろんな活動内容があって、地域移行は大変だと思われるが進めていってもらいたい。
  
- （委員）スポーツの実施状況に関するアンケート調査が、今までは対象者を抽出して行っていたが、市広報を見ると携帯による回答になっていた。今回からこのようになったのか。⇒以前は1,000人を無作為に抽出してアンケートを送っていたが、今回からアンケートの方法を変更した。
- （委員）以前はアンケートの回答者数が400名前後だった。今回はどのくらいになるだろうか。⇒携帯を持っている年代層が決まってくるため、以前の無作為抽出した1,000人の年齢層とは違うものになると予想される。しかし、いつかはアンケート方法を切り替えなければならぬため、今回アンケート方法を変えて実施した。

#### 4. その他 なし

#### 5. 閉会（略）

以上